

続ができません。

10年前、「介護保険10年の宿題」でNHK ETV視点論点に出演しましたが、その時に提示した課題は解決されずに10年がすぎ、20年を迎えます。その最後の部分をここで読ませていただきます。

「住み慣れた我が家で、親しんできたきた地域で暮らし続けたい、最期を迎えたい。私たちは高齢期を迎えたみなさんのこのささやかな願いを、できる限りかなえられるようにと活動を続けてきました。私たち自身の老後もそうありたいからです。介護保険の理念は、この私たちの理念に重なっていました。制度が始まって20年（10年でした）経った今、最も大きな宿題は、あらためて、この多くのみなさんの願いを無理なく叶えられるように、制度を作り直すことではないでしょうか」



院内集会に参加してきました

ケアサポートえん／西本由美子

介護報酬の引き下げで訪問介護の倒産が前年の2倍、報酬削減の影響を少なくするために厳しい条件をクリアして加算を取れば、「わかってるんだろーな」とでもいうかのように、超・超・超・厳しい締め付けが待っている。その上ケアプランの有料化、要介護1、2まで介護保険サービスから外す動き等、制度改定のたびに改悪されていく。これでは安心して使うどころか、制度があっても使えない…。

このような状況に、介護保険制度が始まる前からかかわってきた方々が声をあげた今回の国会集会。初めて近くで見る国会議事堂、テレビや書籍でみたことある！ようなりレートークの方々、政治に疎い私でも名前と顔が分かる政治家の方々にドキドキしながらも、この危機的な制度に怒りをもって、皆さんが参加されているのが痛いほど伝わりました。

私だって怒っています！こんな制度では、今も、これからも、利用する人たち、その家族、私だって、私の親だって、介護保険がこんなままで良いはずはありません。この皆の怒りをもって介護保険の改悪を防ぎたいと切に感じた集会でした。そして決められた制度だからとあきらめてはいけないとも思いました。「絶対に後退させないぞ〜！」と今回のように怒りの声をあげていかなければなりません。皆様も一緒に声をあげませんか？

